

聖地のこどもニュース

オリーブの木

No. 15 2005年5月



支援者の皆様、上の絵は日本人高校生たちが、先日の「平和をつくる子ども交流プロジェクト」事前研修の最後に、このプロジェクトの意味と目的についてみんなで考えて表現したものです。ロゴが太陽、じょうろはイスラエル・パレスチナ・日本の対話、そこから信頼、分ち合い、和解などの水が流れ出て地面に隠れている種に注がれると、次第に芽が出て、とうとう美しい「平和」の花を咲かせるという意味だそうです。彼らがプロジェクトの主旨を良く理解してくれたことをとても喜んでます。イスラエル・パレスチナの方も少しずつ準備が進んでおります。今までのご協力を心から感謝しながら、今後とも温かく見守り、ご支援を続けてくださいますようお願いいたします。井上弘子 スタッフ一同

NPO 法人 **聖地のこどもを支える会**

事務局：☎ 164-0013 東京都中野区弥生町 1-19-1-201

Tel & Fax : 03-3379-5571 e.mail : seichi@k.email.ne.jp

ホームページ : <http://www.ne.jp/asahi/seichi-no-kodomo/org>

教育をとおして希望の光を！

パレスチナの子どもたちは今、学年末試験の真っ最中です。彼らは日本の子どもたちと同じように、試験にどんな問題が出るか、十分な準備ができたかどうか、失敗したらどうしようかと心配したりしています。2週間もすればすべて終わって楽しい夏休み、みんな大喜びで夏のキャンプの準備を始めます。

(神様の)おかげで、2004～2005年度の学校生活は、ここ数年と比べると格段に良くなりました。ストライキもなく、イスラエル軍による強制的な学校閉鎖もありませんでした。こうして普通の学校生活が戻ってきたことで、先生たちは、



授業を普通にすることが出来ました。生徒たちはインティファダの時よりもっと熱心に学校へ通っており、もっと集中して勉強しています。

たしかに政治的社会的状況は徐々に正常化してきています。たとえあの「恥辱の壁」の建設がまだ続けられ、検問所のためにパレスチナ人たちが自分たちの国の中でさえ、通行の自由が奪われ、とりわけエルサレムへ行くことが不可能だとしても……。回復の兆しは確実に見えています。制限や禁止が以前より緩やかになり、「普通の生活」への希望が生まれてきているのです。

とはいえ、この学年末にあたって、授業料が払えなくて心配している親がまだ大勢います。将来の見通しが立たないので、この先子どもたちを学校へ通わせ続けられないのではないかと恐れているのです。

もちろんこの国の経済的な状況は非常に厳しいものがあります。日常生活にも事欠く家庭は数えきれません。インティファダの犠牲者なのです。

皆様のご支援、また世界中の「友人たち」の支援のおかげで、私ども連帯事務局は、パレスチナに住む子どもたちに教育を通して希望を与え続けることが出来ます。

皆様が、いつも本当に寛大に大きな愛をもってご支援をしてくださることを心から感謝しております。キリスト・イエスが皆様を祝福してくださいますように。

ピエトロ・フェレット 連帯事務局長：イエスの聖心会司祭

2004年度収支報告

2004年4月1日～2005年3月31日

科 目	金 額	各科目合計	総合計
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
入会金収入	35,000		
会費収入	240,000	275,000	
2 寄付金収入			
NPO 法人への支援金および寄付金	10,934,755		
青少年国際交流事業への			
支援金および寄付金 (注1)	4,755,417	15,690,172	
3 青少年国際交流事業への助成金	4,000,000	4,000,000	
4 青少年国際交流事業への雑収入	157,345	157,345	
当期収入合計			20,122,517
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 教育支援事業費	8,421,822		
(2) 普及啓発事業費	1,407,333		
(3) 報告会講演会開催事業費	10,490		
(4) 情報収集事業費	0		
(5) 青少年国際交流事業準備費	48,818		
事業費	1,650,738	11,539,201	
2 管理費			
交通費	144,210		
通信費	158,732		
消耗品費	258,281		
広報費	25,200		
払込料金	98,950		
事務所経費	300,000		
会議費	21,197		
その他	62,117	1,068,687	
3 予備費	0	0	
当期支出合計			12,607,888
当期収支差額			7,514,629
前期繰越収支差額			395,617
次期繰越収支差額 (注2)			7,910,246

(注1) 「平和をつくる子ども交流プロジェクト」を指す。

(注2) 次期繰越収支差額(3月末残高)の内訳

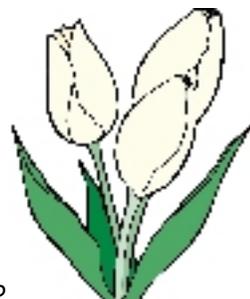
聖地のこどもを支える会	98,222 円
「平和をつくる子ども交流プロジェクト」	7,812,024 円

2004年4月1日から2005年3月31日までに
支援して下さった個人・団体のお名前

個人の支援者：（アイウエオ順） 匿名希望の方を含め、約520名の方々です。

青木 泉	青山あつ子	浅川 武	浅川祐三・隆子	浅沼誠子	霞田美知恵
東 純子	東 幸江	安田治夫	安達マサエ	新 直己	新井郁子
新井栄一	荒井恵子	新井こずえ	新井千賀子	新井テイ子	新井道成
安藤幸子	安藤美紀子	飯塚和彦・弓子	五十嵐京子	五十嵐澄子	五十嵐美保子
五十嵐康人	井口利一	I.マルチネス神父	池田和子	池田淑子	池永廣美
池本百合子	伊澤純子	石井とき江	石崎由紀子	石田朗子	石原登志子
和泉紀代子	和泉セツ子	磯部富子	磯部雅子	市居潤子	市川里美
市川黎子	市村光生	井手雄一	伊藤多恵子	伊東止女子	井上慶子
井上春代	井上弘子	猪俣一省神父	今井 泉	入江友子	岩崎正幸
岩永千一	岩永千代子	岩本憲嗣・八智子	岩本ヨシエ	上綱祥子	植松敦子
宇田八重子	内田千草	内田芳人	内山正幸	宇根 功	梅川美津子
梅津明生神父	恵口和枝	江副征爾	江波戸晴夫	江村紀美子	遠藤恵美子
遠藤香恵子	及川幸子	呉 蓮子	大岡よし江	扇谷良廣・ウタ子	大久保洋子
大高まみ	太田美代子	大田原智子	大友幸子	大野直美	大原邦清
大部 優	大屋菁示・和江	大八木汜子	大和田庸子	岡 捷子	岡田友治
緒方貴子	岡 敏子	岡本みどり	小川千枝子	小川千都子	小川泰弘
奥原芳子	奥村 聡	尾崎和子	尾崎 緑	小田怜子	小野浩司
小野佐代子	加賀屋ケイ子	鍵本 浩	笠原篤子	加藤和子	加藤喜代子
加藤恵子	加藤貞子	加藤知恵子	加藤朋子	加藤正毅	金尾裕子
金澤仁志	鎌田まさ子	柏森雅子	川島澄子	河田昌世	河村一一
河村勲二郎・多美子	河村 正	川本和子	河本道子	菊池景子	菊池崇文
菊地美恵子	菊地鈴子	木佐貫七恵	北 達夫	北楯暢子	北林民子
木下新一	木原美恵子	木村則子	木村道子	清藤富世	久家康雄
櫛山シズヨ	工藤里代	工藤正秀	國井悠加	久保 陽	熊谷マリ子
蔵富千鶴子	鋤田麗子	桑野まり子	小池章子	杠愛子・隆志	小久保俊三
小坂田さち子	小坂田裕子	輿石修古	小谷美絵子	後藤秀次	後藤 幸
五島文恵	小藤道子	小西羊一・一枝	小林暁子	小林明子	小林久美子
小林周子	小林 剛	小牧寿子	五味美香子	小宮静江	小宮山昌三
小山義平	今満里子	西條早苗	斉藤栄子	斉藤直子	斉藤英夫
斉藤ふきえ	斎藤真理・由紀	坂 綾子	坂上寛子	坂上好登	榊原和子
阪口敏子	窄口ユキ子	坂下実千代	坂戸房枝	坂本昌巳	坂本雄郎
匂坂良子	先田直子	佐久間景子	佐倉 泉	桜井房子	佐々木郁子
佐々木清	佐々木澤子	佐々木百合子	佐々木羊子	笹森千和子	佐田恵子
佐多保彦	郷家政男・かな江	佐藤 治	佐藤和子	佐藤俊彦・朝子	佐藤治子
佐藤弘子	佐藤裕子	佐藤正恵	佐藤政信・トシ	佐藤光子	佐渡一邦
更田晴子	椎川 茂	塩原いね子	塩原裕喜	滋賀秀三	重石恵美子
重野よしを	篠原誠吾	柴田津る枝	島田ミサオ	島田みち子	島村晶子
清水紀代子	清水範子	清水志おり	下條善子	下田定吉	白柳隆明
印 慶子	白水明代	末廣石光	末広洋子	菅野ウメ	菅原賢二・古鞠
菅原友明	杉原キミヨ	杉山信彦	助川あや子	鈴木キクイ	鈴木幸雄
鈴木登喜子	鈴木敏博・邦子	鈴木典子	鈴木道子	須田恭子	住吉幸子
関根由利子	妹尾誠子	先崎子之吉	外山憲子	孫 順玉	田井恵美子

高石俊子	高井多可み	高島文枝	高田多基子	高田 統	高田留奈子
高津久美子	高塚富士子	高野千草	高橋久子	高畑美恵子	高比良國廣・テイ子
高平芳郎	高見カルメン	田上征子	瀧内優子・萌花	滝 陽子	田久保あゆみ
武井 博	竹内三喜男	竹下俊史	竹葉純子	建部正秋	竹村皓恵
田島久仁子	田代弘子	橘恵子・道子	立林久美	伊達由美子	田所泰男
田中栄子	田中三郎	田中志郎	田中節子	田中初代	田中真佑美
田中 翠	田辺ヒナ子	谷口茂昭	谷口寿美枝	谷 陽美	田畑孝子
田畑尚美	田花安子	田村久美子	田村忠義神父	田村辰美	寺田英子
丹呉喜美子	丹野邦枝	千葉 隆	辻 知子	辻部 寿	土本志保子
土屋浜子	土屋正彦	筒井三喜子	堤 律子	都藤清美	角井正義・真由美
寺尾築子	寺田和子	寺田京子	天明恭子	唐木三重子	藤 春江
徳永 禎	殿村直子・信二	富田道代	富田由美	内藤三重子	直井栄治
永井裕子	中尾由美	中川洋子	中里千代子	中島紀史子	西浦花也
中島光一・祐子	中島敏夫	中島富美子	長島由紀子	長坪 光	永富久雄神父
中 具巳	長野浩二	中野幸子	中野里晃祐	永野博信	中村啓一
中村トシ子	中村正明	中村ミツノ	中村美弥	中村義子	中本徹信
中山恭子	中山 宏	浪治三重子	難波嗣朗	新居孝彦	西田泰子
西間木公孝	西 勝	西山美代志	仁藤秀子	野坂静子	野島美津江
野田栄三	野田征子	野田 寛	野中亜希子	野村晋一	野村陽一
野本芳子	橋田 玲	橋本和子	橋本堅太郎・昭子	花房史子	羽戸廣子
浜崎キミエ	濱田厚子	浜田達男	林 一江	林 淳子	林 慎子
林 敏恵	葉山文子	早水ゆき	原 清・暎子	原 桂子	東山愛子
樋口世喜夫	日紫喜満章	藤村宏子	肥田 潔	日野トモ	平野孝子
蛭田幼一・文江	廣田直也	深田久子	深堀 柱	福井 潔	福田青柳
福田久枝	福本 敏	藤井たかし	藤田美世子	藤本保子	藤原伸子
夫福敬	古垣保幸	古田瑩子	古本佳世子	古屋朝則	古屋敷一葉
古谷広志・和子	星野剛一・陽子	堀江民子	堀口明美	堀 元子	盆子原三枝子
本間早苗	本間紅子	牧野洋一	馬越由美	真下まゆみ	榊居文子
榊谷紀子	増満由美子	松井瞭博	松岡啓貴	松崎道明	松澤清子
松本信子	松本秀友神父	松本秀信	真山かほる	マリ－セレクション	三上成子
三国谷憲雄・信子	三島八重子	三島夕里亜	水上みち子	水川玲子	水野俊彦
水野勇人	三須光好	溝井光子	溝渕明美	道又賢一	光藤 操
宮内眞由美	三宅英美子	三宅順子	宮澤豊子	宮田いそ子	宮野美智子
宮本愛子	宮本京子	三好和枝	村井文彦	村上甚市	村上轍道
村上則子	村田和樹	村田志津	村田尚美	望月はるみ	本宿三郎
守口せつ	森 武敏	森 秀機	森本忠子	森本哲生	門間都喜郎
安井もと子	宿澤恵子	矢野廣美	山内亨子	山内恭子・真人	山形みゆき
山口千代子	山口裕子	山賀路子	山崎 彰	山崎幸子	山田瞭子
山田克世	山田 剛	山田満美	山田真理子	山田由美子	
山手一枝	山村サト子	山本敦子	山本恭子	指方邦文	
山本貞代・圭子・尚子		尹得漢・マリア	與倉由希子	吉川美恵子	
吉川八重子	吉田和彦	吉田恵子	吉田静代	吉田とし子	
吉玉修二郎	吉田三代江	吉田有子	吉中佐和子	吉野尚江	
米林慶子	米田博雅・瑞穂	米山和利	鷺巣幸子	渡辺驥一郎	
渡辺千津子	渡部美佐子	向山千枝子			



団 体：以下、2001年11月から2003年3月までに、支援金をお送り下さっ

た教会、修道会、幼稚園、さらにバザーの出店を許して下さい下さった小教区など約130団体のお名前です。

愛徳カルメル修道会垂水修道院塩田文子		愛徳カルメル修道女会
アジジの聖フランシスコ宣教修道女会 援助修道会		援助修道会市谷修道院
援助修道会六甲修道院	幼き聖マリア修道会本部瀬戸修道院	オタワ愛徳修道女会東京修道院
聖血礼拝修道女会聖ヨゼフ修道院	カルメル修道会(大分修道院)	カルメル修道会お告げの聖母修道院
カルメル修道会カルメル山の聖母修道院		カルメル修道会聖ヨゼフ修道院
キリスト・イエズの宣教会	ケベック・カリタス修道女会	
厳律至聖贖罪主女子修道会茅野修道院		厳律至聖贖罪主女子修道会长崎修道院
厳律シトー会伊万里の聖母修道院		厳律シトー会天使の聖母トラピスチン修道院
厳律シトー会那須の聖母修道院	厳律シトー会西宮の聖母修道院	御受難修道女会
御聖体の宣教クララ修道会	サジアンシスターズ 管区本部	三位一体の聖体宣教女会
十字架のイエス・ベネディクト修道会	ショファイイムの幼きイエズス修道会	聖ヴィアンネ会修道院
聖クララ会 桐生	聖クララ会 仁川	聖体奉仕会
聖ドミニコ宣教修道女会坂出聖マルチン修道院		聖フランシスコ病院修道女会
聖母訪問会七里が浜修道院		聖マルチン病院
東京カルメル会女子修道院		ドミニコ会神の母マリア修道院
ドミニコ会聖ヨゼフ修道院		ドミニコ会雪の聖母修道院
ドミニコ会ロザリオの聖母修道院		福音史家聖ヨハネ布教修道女会
ベタニア修道女会		宮崎カリタス修道女会井萩第一修道院
宮崎カリタス修道女会井萩第二修道院		宮崎カリタス修道女会総本部修道院
宮崎カリタス修道女会名瀬修道院		宮崎カリタス修道女会管区本部修道院
無原罪聖母宣教女会		レデンプトール宣教修道女会
イエズス会		グアダルーベ宣教会
厳律シトー会お告げの聖母修道院	聖ザベリオ宣教会	聖パウロ修道会八王子修学院
聖ヨハネ病院修道会	ドミニコ会ヴィンセンテ・アリバス	パリ外国宣教会 M.コーナン神父
ベトレヘム外国宣教会 A.ツゲル管区長		レデンプトール会 R.ブローア神父
カトリック秋津教会 コ・クワン・デ・イン神父		カトリック伊万里教会
カトリック上野教会	カトリック大浦教会教会学校の子供達	カトリック大間々教会ベダ神父
カトリック小野田高千帆教会	カトリック加古川教会	カトリック鹿児島教区本部竹山昭神父
カトリック鴨川教会加藤英雄神父	カトリック河原町教会	カトリック観音町教会日曜学校
カトリック京都司教区宮津ブロック		カトリック桐生教会 社・ザ・バリオ神父
カトリック倉吉教会関亮一神父	カトリック呉教会	カトリック桑名教会 トニー・バルデス神父
カトリック高蔵寺教会	カトリック金剛教会喫茶コーナー	カトリック鷺沼教会
カトリック鷺沼教会内古着プロジェクト		カトリックザビエル教会
カトリック小豆島内海教会	カトリック膳棚教会	カトリック高崎教会 戸田三千雄神父
カトリック高輪教会 ロモ・フェルデス神父	カトリック高野教会	カトリック館林教会
カトリック谷山教会	カトリック東京韓人教会朱京秀神父	カトリック富岡教会新海雅典神父
カトリック富岡教会戸田三千雄神父	カトリック直江津教会	カトリック名寄教会
カトリック西木場教会堤好治神父	カトリック三軒茶屋教会	カトリック二宮教会土曜学校生徒
カトリック二宮教会福祉部	カトリック花巻教会	カトリック紐差教会
広島教区練成会(服部大介)	カトリック藤が丘教会	カトリック松戸教会宮下良平神父
カトリック松原教会 A・ボガルト神父	カトリック松本教会田代和生神父	カトリック紫原教会小平卓保神父
カトリック盛岡上堂教会代表斎藤栄子	カトリック焼津教会	カトリック雪ノ下教会ジラル神父
カトリック百合丘教会 ギ・デ・エボン神父/コーヒー・コーナー/ハーハング/マリア会		
カトリック百合ヶ丘教会有志	勝利教会那須チャペル	勝利神学院神学生一同
東京聖マリア教会日曜学校	日本キリスト教団三軒茶屋教会	日本キリスト教団巣鴨ときわ教会
日本キリスト教団逗子教会	日本キリスト教団茅ヶ崎恵泉教会	サンシティ聖母幼稚園
日本キリスト教団茅ヶ崎恵泉教会教会学校		名瀬聖母幼稚園
丸亀聖母幼稚園	清泉小学校校長遠山紗江子	聖母の騎士会代表江原
不二聖心女子学院	盛岡白百合学園同窓会	道の会巡礼者・勉強会参加者



2004年1月～2005年3月
援助を受けた学校名と子どもたちの人数

* ヤッフア	キリスト教修士会カレッジ (ラサール)	15名
* エルサレム	アルメニア正教学校	11名
* エルサレム	聖アントニオコプト正教カレッジ	18名
* エルサレム	聖ダミアナコプト正教カレッジ	41名
* エルサレム	マル・ミトリ学校	45名
* エルサレム	テラ・サンクタ学院	81名
* エルサレム	キリスト教修士会カレッジ (ラサール)	13名
* ベイト・ジャラ	タリタ・クミ学校	100名
* ベイト・ハニナ	ロザリオ学校	15名
* エリコ	シラ特殊養護学校	13名
* ベイト・ハニナ	アル・フォルサン学校	13名
* エルサレム	聖ジョージ学院	9名
* ベツレヘム	ダル・アル・カリマ学校	6名
* ベイト・サフル	ギリシャ正教学校	158名
* ベイト・サフル	ルーテル羊飼学校	84名

日本の皆様
 ありがとう！
 今年はぼくたち
 620人以上が
 学校へ行くことが
 できました！



イブラヒム神父の「平和の祈り」

私たち、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の兄弟たちは、ともにエルサレムのために平和を祈ります。慈しみ深い主よ、いろいろな多様性を持つ人々の間で対話の努力をすることがどれほど実り多いものであるかをわからせてください。

教会にも、モスクにも、シナゴークにも平和を与えてください。私たち一人ひとりがすべての人に対して、尊敬と愛の「聖櫃」となるよう助けてください。すべての民が一つの家族だと感じることができるよう働く力をお与えください。アーメン

去る5月29日(日)東京四谷のサンパウロにて、2005年の通常総会が行われ、つつがなく審議を終了し、事業報告、決算報告、事業計画、予算などの案件はすべて承認されました。

NPO 法人
 「聖地のこどもを支える会」
 2005年度通常総会

**「平和をつくる子ども交流プロジェクト」
 実り多かった日本人高校生研修**

この夏行われる「平和をつくる子ども交流プロジェクト」の準備として、参加する日本人高校生のために「事前研修」がJICA東京国際センターで行われました。とても実り多いすばらしい3日間でした。以下この研修を導いた3人の青年リーダーの感想文をお届けいたします。

東京研修会の 報告

村井源（リーダー）

5月2日（月）から5月5日（木）までの三泊四日間、JICAの研修施設をお借りして、夏の本番に向けての事前研修が実施された。日本からの7名の高校生を中心に、リーダー、実行委員会スタッフ、支援者の皆様を合わせて30名弱が参加した。

研修会の目的には、イスラエル・パレスチナ問題について理解を深めることだけでなく、イスラエル・パレスチナの高校生たちに広島・長崎について話ができるようになる、平和について考える、参加するメンバーの絆を深めるなど様々な要素が含まれていた。

このため三泊四日の短期間に、たくさんの候補から優先度の高い内容のみを選んでギュッと濃縮する形になった。朝から夜遅くまで、大人の間からは少々厳しいスケジュールではあったが、若い高校生たちは楽しみながら、私たちの期待以上の成長ぶりを見せてくれた。その様子について、スケジュールに沿いながら簡単にご報告したいと思います。

一日目は、平日のため学校が終わってからの東京集合となり、長崎と広島からのメンバーが揃ったのは夜の10時を過ぎてからだった。簡単に自己紹介をして就寝とした。

二日目は、まずプロジェクト全体について猪俣一省神父（NPO法人監事）の講話と井上実行委員長からの説明があった。この日のテーマはイスラエル・パレスチナ問題について理解を深めることで、現地の歴史的・地理的な背景や現状について、スライドやビデオを交えながら予備知識を学んだ。

午後には、パレスチナ総代表部の一等書記官の方二人が、当事者の視点からこの問題について話してくださった。メディアの情報からだけでは窺い知れない生の声に触れることで、問題の大きさと複雑さを身近に感じる良いきっかけとなった。夜はリーダーたちも含めて体育館で汗を流し、交流を深めた。

三日目には、朝イスラエル大使館の方から話をしていただいた。分離の壁の問題ひとつをとっても、パレスチナの方たちの理解と、イスラエルの方たちの理解はまったく違っており、それぞれにそうなる理由があるということ学んだ。高校生たちからは、「この理解のギャップを埋めるためには対話がまず必要だ」、そんな意見も出てきた。

午後からは、平和をつくるということ、日本に落とされた原爆を通して私たちの問題として理解するために、広島と長崎の話聞いた。その後、「現代に生きる私たちが原爆をどう語るか」というテーマでディスカッションを行った。その中では分離の壁と同じように、原爆の意味も人によって大きく異なることが話題になった。広島にさえ自分は原爆とはまったく関係ないと思っている人がいたり、アメリカでは戦争を終わらせるためには必要だったとする教科書がある一方で、60年たっても、社会から忘れられて苦しみ続ける多くの人々がいるのではないかと。この現実の中で、どのように平和をつくっていくことができるのだろうか？

大人たちも加わり、白熱した議論が交わされた。

夜には研修会の内容を踏まえて、彼らの思いを一枚の紙に表現する共同作業を行った。高校生たちは深夜までかかって納得のいくものを作り上げてくれた（表紙参照）。

最終日の四日目には、「平和をつくることは若い皆さんの世代にかかっている」という鈴木信一神父（聖パウロ修道会）の話の後、本番までの様々な準備について話し合った。イスラエル・パレスチナについてもっと学びたい、お互いの理解を深めるため共同で読む本を決めよう、もっと英語力をあげるためにどうしよう、など様々な意見が出される中、高校生たちは自分たちから積極的に役割分担を申し出てくれた。夏に向けて一つのチームとして動き始めたことを強く感じながらそれぞれの家路についた。

反省すべき点も多々ありましたが、全体としては当初の目的は十分に達成できたといっておいよいのではないかと考えている・・・。（後略）

平和の道具に してください

水野 宏美 (リーダー)

「平和をつくる」。この大きな期待を前に、プロジェクトに参加する高校生たちは、まずパレスチナとイスラエル双方の歴史や主張、そして日本の戦争と被爆体験について、人々の語りに耳を傾けた。そして自分にとって平和はどのようなものかについて、それぞれの角度から真摯に語り合いました。いろいろ語り合ううちに、それぞれの大切な人たちに思い当

たりました。突然家族を失ったらどうなる？いつもは当たり前に思いがちな家族との食事の大切さ、両親や兄弟に対する思いなどが話し合われました。

夜の分かち合いでは、他者の悲しみを理解することや、政治的立場を超えた一人の人間としての生き方についても言及されました。とくに最後の夜には、このプロジェクトに送り出してくれた家族や支援して下さる方々を思い、感謝する気持ちを持ってました。これからもこの思いを大切にしていけたらと思います。数多くの方々のサポートがあってこそ、このプロジェクトが成り立っているということを忘れてはいけません。

高校生は東京近郊、広島、長崎から集合し、この研修で初めて7人が一堂に会したのですが、初日の夜には他の地方には通じないであろう方言の紹介で盛り上がりました。昼間の研修の合間には、リーダーや数名の大人も混じって、バレーボールや鬼ごっこで汗を流し、就寝の時間を過ぎてからは、高校生だけで集まって親睦を深めていたようです。「彼らはすっかり仲間になれた」というふうに私には感じられました。

研修では、私個人としても大切にしている祈りの歌「平和の道具にしてください」を歌いました。8月にはおそらく、イスラエル・パレスチナの高校生とともに全員で英語で歌うことができるのではないかと思います。このプロジェクトを通して育まれていくであろうメンバー同士の「私とあなたとの関係」が、無限の広がりを持つ大きな輪となって、長い将来にわたり、平和をつくる働きになることを期待しています。



高校生研修に 参加して 濱田 壮久 (リーダー)

今回、研修会に参加して特に印象に残ったのが、一人ひとりの高校生の平和に対する鋭い問題意識と、自分のこととして受けとっていく瑞々しい感性です。「平和」と聞くと、どうしても漠然としていて、抽象的なことと捉えてしまいがちですが、一人ひとりが誠実に理解を深め、そして、何よりも自分が出会う人たちと直接かわる中でつくっていくこととして「平和」に取り組もうとする姿勢が、みんなの中にはありました。

研修会最後の夜に、「平和をつくる子ども交流プロジェクト」に取り組む意気込みを作品で表現しようということで、高校生だけで共同作業が行なわれました。出来上がった作品



では、地面に埋められた種に、「対話」という水が注がれることで、徐々に芽を出し、成長し、最後には美しい花を咲かせる姿が、高校生自身の姿として描かれています。この美しい作品で描かれた平和観が、一人ひとりの高校生の心に深く根を下ろしている。とても素敵なことだなと思いました。新しい世代、若い世代が直感的に結ばれ、平和への共通の熱い想いを表現したことは、何よりも尊いことだなと思います。

平和が壊れる原因となる問題を直視すること、これはすごく大切なことです。でも、「どうせ平和なんて達成できるはずがないさ」という諦めの気持ちで直視したとしても、「憎しみの連鎖」は終わらない。やはり、未来への希望と次の世代への信頼があってこそなのでしょう。パレスチナ総代表部のイヤッド・アルヒンディ等書記官が、次の世代に憎しみの連鎖を残さないためにも今がチャンスの時なのだと、熱く語ってくださった姿がとても印象に残っています。

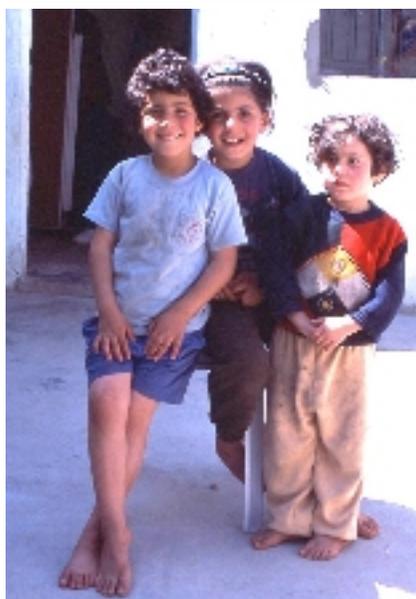
フォトアルバム



上：研修を終えた高校生と青年リーダー



上：壁の向こうから「自由」を見つめて



上：デヘイシャ
難民キャンプの子どもたち
関谷神父様撮影



上：ギターとともに歌の練習



右：研修の最後に、
聖フランシスコの祈り
「私を平和の道具にしてく
ださい」を歌う高校生たち